

かべ新聞コンテスト 指導のヒント

-はじめの一步-

2025年6月

株式会社博報堂

はじめに-エネルギー教育4つの視点-

エネルギー教育を進めるにあたって重要なのは、以下の「4つの視点」です。

かべ新聞コンテストについても、以下の4つの視点を重視しております。

エネルギーは、答えが一つではない、考える人の数だけ答えがあるテーマです。

以下の4つの視点を活用しながら、子どもたちのよりよい学習へとつなげていただけますと幸いです。

〈エネルギー教育を進めるにあたって留意すべき4つの視点〉

視点① : エネルギーの安定供給の確保 (エネルギー資源小国)

視点② : 地球温暖化問題とエネルギー問題 (化石燃料の大量消費と二酸化炭素の排出)

視点③ : 多様なエネルギー源とその特徴 (エネルギー源のメリット・デメリット、S+3E、エネルギーミックス)

視点④ : 省エネルギーに向けた取り組み (省エネの更なる推進)

※エネルギー教育を進めるにあたって留意すべき4つの視点については副教材『かがやけ! みんなのエネルギー』教師用〔解説編〕 のiv～viiページ、及び、『わたしたちのくらしとエネルギー』に解説が掲載されています

※あわせて、『日本のエネルギー』 (<https://www.enecho.meti.go.jp/about/pamphlet/>) もご参照いただけますと幸いです。

本資料の位置づけ

3

かべ新聞を作成するステップは、「テーマ設定」「調べ学習と分析・考察」「アウトプットの製作」の3ステップです。

本資料は、各ステップの進め方や指導のヒント等を記載し、指導される教職員の皆さまの実践の参考としていただく目的で作成しています。

〈作成までの流れ：全体像〉

Step1：テーマ設定

かべ新聞を作成するにあたって、
「何を調べるのか？」
を決める段階

Step2：調べ学習と分析・考察

Step1で決めた「テーマ」についての
情報を調べる・考察する段階

Step3：アウトプットの製作

Step2までで集めた情報を、
かべ新聞の形式に取りまとめる段階

次のページから、各ステップにおける指導の進め方やポイントについて記載していきます。

「Step1：テーマ設定」のポイント

かべ新聞の作成に向けた最初の段階は「テーマ設定」です。子どもたちからエネルギーへの関心を引き出し、主体的な調べ学習を進めるための下地づくりが、このステップで意識すべきポイントです。

（以降のステップでの学習効果を最大化するために、本ステップが“最も重要”かつ“適切な指導が必要”な段階です）

〈指導のポイント〉

1. エネルギーを学ぶ「意味」及び「共感形成」

- かべ新聞作成に取り掛かる入口として「エネルギーを学ぶ意味」を理解してもらうことが必要。
- “必要だから”や“社会課題だから”といった“過去からの流れ”に依拠させるのではなく、自分たちの将来や地球の展望など“未来との繋がり”の中で、学習の意義を伝え、たしかに必要そうだと（≒共感）と感じてもらうことを目指す。

例えば、、、

- ・ エネルギーを考えることは、「生き方」に直結する
- ・ エネルギーは、「答え」が一つではない
（いろんな視点/立場によって答えが変わる）
- ・ 地球規模の環境問題につながる など

最重要!!

2. エネルギーの「自分ごと化」促進

- エネルギーを学習することへの共感を形成出来たうえで、子どもたちの個性・感性・関心とエネルギーをつなぐことが必要です。
- 世の中で議論されているエネルギーに関する内容をテーマにするのではなく、子どもたちならではのエネルギー学習の視点を見つけるために、普段の生活や好きなこと、街歩きの中で気づいたこと・・・などなど、私生活とエネルギーの繋がりを紐解くプロセスを組み込むことがおすすめです。

3. 自発的な“問い”への誘導

- エネルギーと自分との距離感を詰められた後で、かべ新聞作成のテーマ決めにも直接的につながってくる段階です。
- 子どもたちがエネルギーを自分ごと化できた視点を、かべ新聞作成のテーマに昇華させるべく、「これってなんでだろう？」という自然に湧き上がってくる問い＝探究心を生み出すファシリテーションを行います。

「Step1：テーマ設定」の指導の流れ例

指導のポイントを踏まえて、実際に指導を行う際の授業の流れ（一例）です。SDGs学習などに加えるのも効果的です。

授業の位置付け

授業テーマ

実施内容例

備考

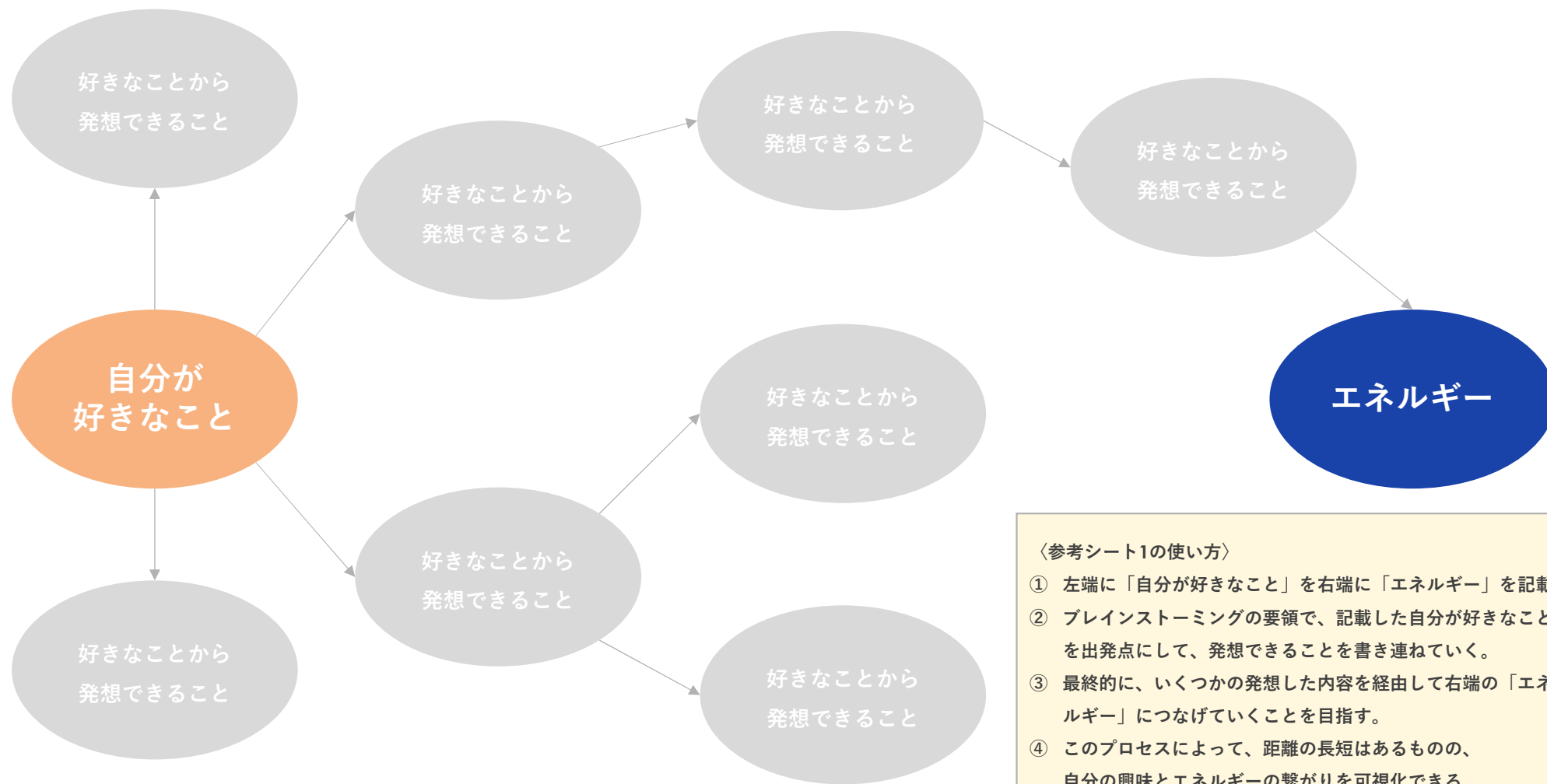
基本の流れ

Step 1	エネルギーを学習する理由を腹落ちさせる	エネルギー問題と未来の生活	- 現状の日本のエネルギー実態についての基礎情報（自給率の低さ等）を説明 - その後に、このままだとどうなるか？をクラス/チームで議論を行う	「日本のエネルギー」も参考 (https://www.enecho.meti.go.jp/about/pamphlet/)
Step 2	エネルギーと自分の繋がりを考える①	エネルギーと“私の好き”	自分の好きなこと（ゲーム・ファッション・・・など何でも）を起点に、エネルギーとの接点を考察する	参考シート1を活用
Step 3	調べるテーマを決める	私が気になるエネルギーの〇〇	- 初回～前回までの授業を経て、自分が気になるor調べてみたいことを言葉にしてみる - クラス内で発表/子どもたち同士で意見交換を行い、調べるテーマをブラッシュアップする	

より発展的に進めるなら

発展①	エネルギーと自分の繋がりを考える②	エネルギーと“私たちの暮らし”	- タウンウォッチングを行い、自分たちが暮らす町/地域をエネルギーという視点から眺めてみる。 - 普段は見落としている要素をクラスで言語化してみる	参考シート2を活用
発展②	1次情報収集の実施	実際に調べてみよう	自分で決めたテーマに関する内容を各自で情報収集を行い、分かったことを取りまとめ、調べ方に対するアドバイスをを行う。	「日本のエネルギー」も参考 (https://www.enecho.meti.go.jp/about/pamphlet/)
発展③	調べるテーマを深掘る	調べる視点を広げ、テーマ設定をしよう	情報収集して分かった内容を、子どもたちの間で披露しあい、周りの意見をもらうことで調べるテーマを捉え直し、今後調べるテーマをより明確化させる。	「日本のエネルギー」も参考 (https://www.enecho.meti.go.jp/about/pamphlet/)

参考シート1：“自分の好き”とエネルギーの接点



参考シート2：タウンウォッチングとエネルギー

自分が行った場所

自分が気になったこと・もの

まちとエネルギーの繋がりについて考えたこと

①	(例) 〇〇駅のロータリー	(例) 4月中旬なのに、 アゲハチョウが飛んでいた	(例) 夏の虫が春に飛んでいるということは、気温が上がりすぎて まちにいる虫や魚などの生き物に変化があるのかもしれない
②			
③			
⋮	⋮	⋮	
⑩			

〈参考シート2の使い方〉

- ① 自分が行った場所/気になったもの・こと/考えたことの3点セットでシンプルに記入をしてもらう。
- ② タウンウォッチングに行って、自分が感じた内容を忘れないように、できるだけその場で記入をしてもらう。
- ③ タウンウォッチングが出来ない場合には、普段の生活の中での気づき等を書いてもらうなど活用もできる。

「Step2：調べ学習と分析・考察」のポイント

Step1でテーマ設定が出来た後の、本格的な情報収集を進める段階です。

かべ新聞作成にあたっては多くの情報収集が必要ですが、やみくもな情報収集ではなく、計画立てをすることで、効率的・効果的に情報収集を進めることができる。

〈指導のポイント〉

1. 情報の「存在場所」「集める内容」を明確化

- いきなりインターネットや文献を探るのではなく、どこにある情報物の何を調べるのか、という計画づくりから始める。
- はじめから具体的な情報を当てるまえに、ある程度の当たりをつける工程を含めることで、情報さがしの仮説づくりにも繋がり、以降の情報収集における基本所作がセットされ効率化するためおすすめです。

2. 定性だけでなく、定量情報とのバランス

- できるだけ数値データも含めて情報収集を行うことで、作成する新聞記事の説得力が増します。
- また、数値にふれることで、その数値の大小や影響度など、二次的な問いを生みやすく、子どもたちの思考が深まりやすくなります。

3. ヒアリングリストの作成

- かべ新聞コンテンツでは、施設等への見学やインタビューを推奨しております。
- いきなり訪問し、その場で話を聞くのではなく、事前にインタビュー・ヒアリングの項目整理をすることでヒアリング時間を有意義にできます。

4. 長期休みの活用と家庭への協力依頼

- 情報収集のステップに、長期休みが含まれると、子どもたちの集める情報がより豊富になりおすすめです。
- また、賛同してくださるご家庭も多く、家族で施設見学に行ったり、家庭での会話の中で考察が深まることも多くあります。

「Step3：アウトプットの製作」のポイント

最後のステップは、ここまでに集めた情報を「かべ新聞」の形式に取りまとめる段階です。

集めた情報を書き連ねるだけではなく、子どもの解釈・見立てを含めることで、より良いかべ新聞の作成に繋がります。

〈指導のポイント〉

1. 過去の受賞作を参考にレイアウトを決める

- 大量に収集した情報を、いきなりどのように配置するかを考えるのは非常に難しいです。
- ですので、受賞作を参考にレイアウト構造から決めると、作成がスムーズに進行します。

2. 客観情報だけでなく、「客観情報＋主観情報」で記事を作成

- 子どもたちが集めた情報をそのまま記載すると、かべ新聞が事実の取り纏めに留まってしまいます。
- 情報収集する中で考えたことや、未来への見立てなど、子どもたちの自由な発想も含めた記事にすることで、読み手も作り手も発見があります。

3. キャッチコピーづくりにも挑戦

- 読み手が読みたくなるような“言葉づくり”もかべ新聞の重要な要素です。
- 同じ情報でも言い回しが異なることで、読み手の印象は大きく変化するので、見出しの言葉を推敲する工程を組み込むのがおすすめです。
- また、グラフや写真・イラストなども活用を促すことで、視覚的にも優れたかべ新聞へと繋がります。